小澤　議長　殿

令和２年２月 12 日
南魚みらいクラブ
吉田　光利

南魚みらいクラブ政務調査報告

標記の件について下記にご報告申し上げます。

記

1.　日時　　令和２年２月４日（火）14 時 30 分～16 時 15 分

2.　調査先　　大分県豊後高田市役所　真玉庁舎　教育委員会
　　住所　大分県豊後高田市中真玉 2144 番地 12

3.　出席者　豊後高田市　　河野教育長、後藤学校教育課長、黒田庶務係長
　　南魚みらいクラブ　塩川クラブ長、小澤議長、関議員、黒滝議員
　　清塚議員、目黒議員、　吉田記

4.目的　　「豊後高田市学び 21 世紀塾事業」調査研究
　　・子育て支援と教育に力を入れ学力の向上、移住定住に大きな成果を上げて全国的に有名な自治体である。

5.市の概況

①位置　大分県の北東部に位置し、大分市まで 60 ㎞の豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候に属している。

②歴史　平成 17 年３月 31 日　豊後高田市、真玉町、香々町の１市２町が新設合併により、豊後高田市が誕生。

③人口及び世帯数　平成 31 年３月 31 日現在
　男　10，748 人　　女 11，939 人　合計　22，687 人
　世帯数　　10，750

④議会構成　　議員定数　16 人　　現員　16 人　平均年齢　58.4 歳
　　議会運営委員会　　常任委員会　3

⑤議員報酬　　議長　　400，000 円
　　副議長　　360，000 円
　　議員　　340，000 円

⑥財政状況　　（千円）

一般会計予算	15，136，434
特別会計	7，569，525
合　計	22，705，959

6. 調査内容

・豊後高田市の学校

公立幼稚園　2園　　園児数　130名

小学校　10校　中学校5校　小中一貫校　1校

児童数　1，002名　　生徒数　519名

夢を描き、実現できる子供の育成を目指している。

・子育てサポート

保育料と幼稚園授業料　無料

保育園、幼稚園、小中学校、　給食費無料

高校生まで医療費無料

子育て応援誕生祝い金　　100万円

○公営の塾：学び21世紀塾

・平成14年　学校週5日制に伴い、補充学習で誕生。

・事業の3本柱

いきいき寺子屋活動事業（知）

わくわく体験活動事業（徳）

のびのび放課後活動事業（体）

経済格差に対して、全員が平等に学ばれる無料の公的塾である。

・講師303人　塾生　1，886人

講師は教員ＯＢ、市職員、海外経験者、一般知識人、大学生、高校生

大勢の協力を得ている。当初ボランティアであったが長く続くために

現状は講師料を設けている。（高校生は除く）かつて塾生であった人が、大学生、社会人となり、恩返しの意味で講師に頑張っているのは素晴らしい流れである。

・会場は公民館等のスタートから現在学校の利用となっている。

・民間の塾との軋轢は無く、講師として協力している。

・テレビ寺子屋講座

時間的、距離的、交通手段の条件により通えない子供へ、加入率90%のケーブルテレビを利用し、身近な家庭学習を提供している。

・総事業費　2400万円

・学力の成果としては、国内県内トップクラスとの報告。

［所感］

市長の方針の下、公的塾の無料化、給食費の無料化を始めとした思い切った教育及び子育て支援政策は驚異的であり、又継続していることは本当に素晴らしい。講師のサイクルとして恩返し的な事例を紹介され心暖かく感じた。真の子育て支援により移住に結びついていると思われる。市の活性化は教育の注力と子育て支援が大きな政策手段と強く感じ今後の活動に生かしていきたい。殺鼠し

夢を描き、実現できる子どもの

千葉市　幕張メッセ「インバウンド成功事例」

1.日　時　令和2年2月6日（木）14時30分～15時30分

2 調査先　兵庫県富岡市

幕張メッセに於いて　中貝富岡市長講演受講

3受講者

南魚みらいクラブ：塩川クラブ長、関議員、黒滝議員、清塚議員

目黒議員、　吉田記

4.目的　「小さな世界都市、兵庫県富岡市　外国人観光客を6年で45倍」にした成功事例の調査研究

5.内容

・富岡市は現在人口82，250人、2，040年は60，200人が予想され、全国と同様に人口減が、大きな課題となっている。量的緩和でなく質的改善が大事と考える。

・富岡市に暮らす価値が無いから、突き抜けた富岡市、小さな世界都市を考えた。

・グロール化を世界に通用するローカルを目指す。3つの柱で取り組んだ。

① 環境都市

世界に通用するには環境は大原則である。

コウノトリと共に生きるため、休耕田の湿地帯の再生、無農薬、冬も田んぼに水を張り等。

いろんな環境仕掛けから13年連続ヒナが誕生している。

お米は無農薬であることから評判となり高価格で、販売され現在六か国に輸出されている。

② 深さを持った演劇

・永楽館を市が買い取り、舞台と客350席が接近できることが受けて歌舞伎等毎日、超満員である。

・アーティスト　イン　レジデンス　80団体

・演劇祭により国際観光　英語を遊びから取り入れコミュニケーション教育の取り組み

③　インバウンドの促進

・城埼温泉は、洋風は合わない。徹底的に和にこだわり浴衣の似合うまちにする。

・1970年には、暴力団120人治安の悪いまちであったが、暴力団を一掃する。

・契約入浴料制度の導入　宿泊者　大人　210円　　外湯　7ケ所

・共存共栄として城埼地区人口3、500人　2018年　客数　63万人

・Japanの温泉のまちベスト1位に選ばれている。

●副市長の公募　市の弱いところはコスト意識と戦略である。

優れたコーチの意味合いで公募、1371人の応募者から京セラの部長を選任。

・インバウンドに人材がいない、楽天トラベルさんに人材の派遣を要請

・大交流課の設置、スペシャリストをスカウト配置立ち上げる。

年間予算　8千万円　9名体制　内女性5名

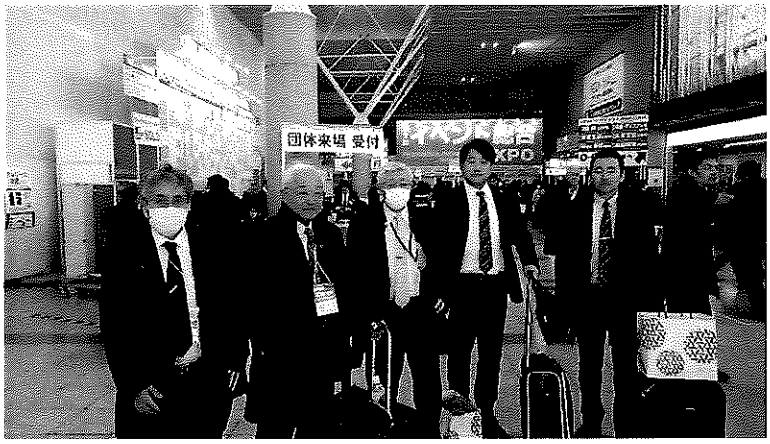
・ローカル and グローバルで WEB 戦略の徹底。
・毎週、城埼夢花火上げ
・無電線化による景観整備
・ライトアップ
・夕飯難民　まち全体でもてなしの仕掛け
・アンケートの実施　城埼温泉満足度

海外	95%	内	大満足	62%
国内	89%			44%

海外からの評価滅法高いのが判る。

[所感]

取り組んでいることの根幹がしっかりしていて、なるほどと思わせる適切な政策と、強く感じた。国際的な大原則の自然環境の取り組、又　副市長の公募、人材スカウトの実施、配置は的を、得ている。日本らしさ自然の立ち振る舞いを原点にアイデアを出し、取り組めば南魚沼市も大きな展望があると思う。牧之通り、直江兼続、無形文化財浦佐裸押し合い祭り、お米、お酒、雪、種は豊富である。これをいかにアピールするか、プロを招聘し、権限を与えて仕掛けることが必要と感じた。



以　上

南魚みらいクラブ　行政視察研修報告書

報告者　目黒　哲也

1.期　　日　　令和２年２月４日（火）～6日（木）

2.視 察 地　　○大分県豊後高田市

○大分県竹田市

○千葉県幕張メッセ　「地方創生 EXPO」

3.視察項目　　○豊後高田市「豊後高田市学びの２１世紀塾事業」について

○竹田市「竹田市湯治温泉療養保健システム」について

○幕張メッセ「地方創生 EXPO　インバウンド成功事例-兵庫県豊岡市-」

4.参 加 者　　関常幸・小沢実・黒滝松男・清塚武敏・塩川裕紀・吉田光利・目黒哲也

5.調査内容

1.【豊後高田市　豊後高田市学びの 21 世紀塾事業について】

○会場：豊後高田市役所　真玉庁舎　教育委員会

○担当者：豊後高田市教育委員会　教育長　河野　潔

豊後高田市教育委員会　学校教育課長　衛藤　恭子

豊後高田市議会事務局　総括主幹兼庶務係長　黒田　祐子

○研修目的：教育のまちづくりに力を入れて、塾の無償化、講師のボランティア開拓等により、画期的な学力向上及び若い子育て世代の移住・定住が図られ、地域活性化となっている展開について調査研究をする。

○豊後高田市の概要

(1) 人口・世帯：人口　20,687 人・世帯数　10,750　（平成 31 年 3 月 31 日現在）

(2) 地勢：豊後高田市は大分県北東部、国東半島の西側に位置し、東西距離 17.1 ㎞、南東距離 23.2 ㎞、総面積 206.24 ㎢。西は宇佐市、東は国東市、南は杵築市と接している。大分市まで約 90 ㎞、北九州市まで約 90 ㎞と両市には比較的近い距離にある。

(3)気候：北は周防灘に面し、豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候に属する。

○調査内容

■豊後高田市における「教育のまちづくり」の取り組み■　令和元年度予算 2,400 万円

「夢を描き、実現できる子どもの育成」～子どもたちが自分の好きなことをより好きに～

(1)豊後高田市の学校

○公立幼稚園　2 園　園児数　130 名

○小学校　10 校・中学校　5 校・小中一貫校　1 校　児童数　1,002 名　生徒数　519 名

(2)豊後高田市施策「昭和のまちづくり・子育てのまちづくり・教育のまちづくり」

～「住みたい田舎」ベストランキング 2019　堂々の 1 位～

～全国トップレベルの子育て支援～

○子育て・教育施策　「地域の活力は人！地域で子育てサポート」

H31年4月から実施

① 市内保育園保育料と幼稚園授業料無料化

② 市内保育園・幼稚園・小中学校給食費無料化

③ 高校生まで医療費無料化

④ 子育て応援誕生祝い金　最大100万円

【教育のまちづくりの取組み】

①学校教育の充実　～地域の力を活かした学校づくりの推進～

1) チーム学校の推進：学校教育力・組織力の向上

2) 学校公開の推進：地域に開かれた学校づくり（双方向の関係づくり）

3) ふるさと学習の推進

・郷土の歴史や偉人についての学習（郷土愛を育む）

・次代の郷土をつくる人材の育成（地方創生の実現）

※将来、郷土に住んで働き、社会に貢献していこうとする子供たちの育成

■学校・地域の協働：平成28年度から全校コミュニティースクール制

平成30年度から2つの幼稚園もコミュニティースクール制

■研修機会の充実：教職員のレベルアップの研修制度の強化

■教育関係者との懇談会

①平成14年度学校週5日制に対応し補充学習(公営の塾:学びの21世紀塾)を立ち上げる。

1)学力低下　2) 学習環境（活動する場）

⇓

地域間・経済的・家庭格差…約5%の豊かな家庭の子どもは大分市や中津市に通塾

⇓

『学びの21世紀塾』の誕生

※補充授業だけでなく、子どもたちに様々な経験を与えて、多くの選択肢の中から色々な気づきを育み、それぞれ自分の夢を叶えるために努力する子どもを育てる。

②学びの21世紀塾

※事業の三本柱

1)いきいき寺子屋事業　　「知」

2)わくわく体験活動事業　　「徳」

3)のびのび放課後活動事業　「体」

※三本柱から幅が広がり、さらに三つの事業が生まれた。

4)まなびのひろば

5)市民講座

6)高校生のための学びの21世紀塾

1) いきいき寺子屋事業

【土曜日講座】毎月第1・3・5土曜日　9時～12時（50分×3コマ）開催。19会場

① 土曜日寺子屋講座

・小学生講座：全小学校(10校)を会場に、教科の復習（算数・国語・理科実験）

・中学生講座：全中学校(6校)を会場に、教科の復習（国語・数学・英語・社会・理科）

② 英会話教室：主婦、移住者、海外生活経験者が幼稚園2園と小学校2校で開催。

③ パソコン講座：6校の小学校で小学生を対象に市職員や市民がキューブキッズ（児童用ソフト）やプログラミング学習を教材として教える。

④ そろばん教室：1校の小学校で小1・2・3年生を対象に元そろばん塾講師が教える。

⑤ 少年少女合唱団：幼›小›中学生により結成。定期的に演唱会やミュージカルを開催。

⑥ まなびのひろば：特別な支援を必要とする児童・生徒を対象。第1・3土曜日開催。

「思いっきり遊ぶ楽しむチャレンジする！」

レクリエーションやおやつ作りを通して交流を図るとともに、保護者同士の交流や相談活動を実施。

【水曜日講座】（中学1.2年生）　中学校は、毎週水曜日は部活動が休みの日

中学校1.2年生を対象に、塾の講師、主婦、教員OBによって毎週水曜日の放課後（6or7限）に国語・数学・英語のうち1教科を復習する。教職員は校内研究や研修、教科部会、分掌会議等を行っている。

【夏季・冬季特別講座】（中学3年生）

中学3年生を対象に、入試対策として夏休みと冬休みに英語・数学・国語の講座を7日間開催。市内中学校6校を3校、3校の2つに分けて開催することで他校の生徒との交流も刺激となっている。講師は、退職校長、塾経営者、市民、大学生等。大学生の学習サポーターは自分も中学生の時に教えてもらい、助かった経験から自らもサポーターになる学生や教員を目指す学生がサポーターになる。大学生サポーターは、今年度は13名。大学生サポーターから教員としてUターンを目指す学生がいる。

【ステップ・アップ講座】（小学生）

小学生を対象に、全小学校で夏季休業中に5～10日間、担任教師と退職校長等の複数で算数・国語を中心に復習を行う。

【放課後寺子屋講座】（小学校）

小学4年生以上を対象に、毎週水曜日を除く月曜日から金曜日の4日間、3会場で退職校長、市民、教頭、高校生等が宿題等の学習支援を行う。各会場45名前後。高田高校1.2年生が学習サポーターとなっている。

【テレビ寺子屋講座】

●開設経緯

① 加入率90%を超えるケーブルテレビを教育に活用する。

②学びの21世紀塾に通いたくても時間的・距離的・交通手段などの条件により通えない子どもへの学習機会の提供。

③身近な家庭学習の方法。

●番組　講師25名（塾講師12名＋市内教諭13名）　計22講座　228本

①小学校：算数　5.6年生・理科　6年生・英会話

②中学校1～3年生：国語・数学・英語・理科・社会・英会話

【寺子屋放課後児童クラブ】

平成30年度から、放課後児童クラブに学びの21世紀塾の市民講師（退職校長、教員OB、市民）を派遣し、学習支援を行う。働きながら安心して子育てできる環境づくり及び学ぶ場の提供をすることにより、子どもたちが意欲的に学習できるようにサポート。

【令和元年度いきいき寺子屋活動事業　塾生・講師登録者数】

①	寺子屋講座	塾生　927名	講師　214名
②	パソコン講座	塾生　317名	講師　15名
③	夏休み特別講座	塾生　173名	講師　11名
④	冬休み特別講座	塾生　173名	講師　11名
⑤	水曜日講座	塾生　176名	講師　12名
⑥	放課後寺子屋講座（昭和館）	塾生　44名	講師　3名
⑦	放課後寺子屋講座（プラチナ館）	塾生　45名	講師　3名
⑧	まなびのひろば	塾生　31名	講師　34名
	合計	塾生1,886名	講師　303名

2)わくわく体験活動

市内各地区公民館と学校を中心に、週末や平日の放課後を利用して、子どもたちが日ごろ体験することができないような活動を行う。

【週末子ども育成活動】毎月第2・4土曜日開催。子どもの健やかで安全な居場所を提供。

① 伝統芸術文化活動：太鼓教室・茶道教室・俳句づくり教室・歌舞伎教室等

② ものづくり活動：粘土教室・竹とんぼ教室・風車づくり教室・正月しめ縄づくり教室等

③ スポーツ活動：グランドゴルフ・カヌー・カローリング・スポーツチャンバラ等

④ 家庭教育活動：クリスマスケーキづくり・魚料理・レンコン料理他料理教室等

⑤ 農業体験活動：さつまいも苗植え、収穫・田植え、稲刈り、餅つき・レンコン堀り等

※平成30年度実績

■会場数　10会場

■活動回数　延べ105回

■参加児童数　延べ1,254名

■指導者及びボランティア数　延べ1,101名

【ステップ・アップスクール】

長期休業中、主に小6年生を対象に、宿泊型社会教育施設を活用し、2泊3日で自然体験活動、製作活動の集団活動並びに掃除、洗濯、片付け等、様々な生活体験活動を行うまるごと熱中体験と中学校長による理科実験や教科学習のまるごと熱血授業。

3)のびのび放課後活動事業

健やかな心や体づくりを目指し、放課後を利用して保護者、地域の方、教職員の指導のもとスポーツ活動を行う。17 競技 31 団体（野球 10・バレーボール 4・剣道 3・ソフトテニス 2・その他 12）が登録されて活動している。

【スポーツ大会の開催】

① 少年野球大会、駅伝競走大会の開催

② 各種スポーツ教室の開催：野球教室・カヌー教室・柔道教室等

【市民講座】

魅力的な市民講座を開催することで市民の交流とまちの賑わい創出を図り、ワンランク上の生涯学習と市立図書館の利用促進を図ることを目的として活動。

■開催：年間 60 回（13 講座）

■場所：豊後高田市立図書館

■内容：古典講座・国際交流講座・健康講座・保健講座・エコ講座・音楽鑑賞講座等

【高校生のための学びの 21 世紀塾】

① 予備校講師による公開特別講座：大学入試対策

② 高校生のための未来塾・講演会

③ 未来の教師育成塾：教員の進路意識を高め将来の豊後高田市の教育を支える人材の育成

④ 土曜日特別講座：進学力の向上を図るとともに保護者負担の軽減を図る

⑤ 小論文指導：推薦試験及び国公立大学第 2 次試験対策

【所感】

平成 14 年度の学校週 5 日制のゆとり教育制度移行にあたり、将来的に学力の低下や学習環境において地域間・経済的・家庭間格差が生じる問題を予見し、先駆けて手を打ち、「地域の活力は人！夢を描き、実現できる子どもの育成」という命題に向かって、18 年前に学びの 21 世紀塾を立ち上げ、今日まで幅広く展開してきたことは、学力県下トップクラスを維持しているという成果が実証している。

それは補充授業のみに留まらず、郷土愛を育む活動や様々な体験を与えて子どもたちの「知」「徳」「体」を伸ばす活動は子どもたちの可能性を広げることにつながってきていると思う。

合わせて毎週水曜日に校内研究や研修、教科部会、分掌会議等を行い教職員のレベルアップを図っていることも重要な活動であると思う。

加えて市民、高校生、大学生、退職校長、教員 OB, 塾講師、市役所職員等からの講師登録者が 300 名以上あることに地域で教育を支えていくという思いが浸透していると感じた。

なかでも高校生と大学生の学習サポーターは、自身が小・中学校や高校でのサポート経験を自分と同じように下の子どもたちに引き継いでいくつながりが大きな財産になっていると感じた。このような「恩送り」は、地域はもとより社会においても今失いかけている大事な日本人の精神であると考える。

更に行政も平成 31 年度 4 月から保育料・幼稚園授業料の無料化、保育園・幼稚園・小中

学校給食費無料化、高校生までの医療費無料化、子育て応援誕生祝い金として1人目　10万円、2人目20万円、3人目50万円、4人目100万円、また子育て世代を最優先で移住者には、上下水道完備の 100 坪の土地を無料で提供するといった力強いバックアップをしている。加えて大阪、福岡で子育て・教育のまちづくりの説明会も開催し、移住・定住者の獲得に効果を発揮している。

豊後高田市の子育てのまちづくり・教育のまちづくりの取り組みから感じたことは、子どもたち自身が、家庭が、教職員が、地域が、議員が、行政が全国トップレベルを目指して、どれだけ本気になって取り組むのか、そしてどれだけ取り組みを積み重ねていけるかが我々に問われているように感じた。まさに地域は「人なり」であることを改めて感じた視察であった。

2.【竹田式湯治温泉療養保健システムについて】

○担当者：竹田市役所　商工観光課　観光戦略担当　副主幹　森田　康之
㈱長湯ホットタブ　支配人　平田　泰浩
竹田市役所　議会事務局　副主幹　内柳　雅浩

○会場：クアパーク長湯

○研修目的：温泉資源を活用した「予防医療・健康づくり」、「新たな観光振興」に取り組んできた竹田市。平成23年から竹田市独自の温泉療養保健制度を導入し、先進的なヘルスツーリズムを展開。「予防医療」と「観光」を融合した温泉新時代を拓いた戦略を調査研究する。

○竹田市の概要

(1) 人口・世帯：人口22,332人・世帯数9,100(平成27年国勢調査)・高齢化率 44.8%

(2) 地勢：大分県の西南部に位置し、総面積477.53㎢で、その70%が森林原野で占められおり、熊本県と宮崎県に接している。1日に数万トンの湧水群を誇る水と緑が溢れる自然豊かな地域である。この山々から湧き出る豊かな名水は全国的にも知られ、下流域の多くの人々の生活を支えている一方、市内各地に温泉を有し、近隣には別府、湯布院など全国的に知名度が高い温泉地を控えている。こうした大自然の恵みを活かした農業や観光が基幹産業となっている。歴史的には奥豊後の中心地として栄え、政治や経済、文化、交通の要衝として発展してきた。そのような時代を物語る岡城跡や武家屋敷等が今も変わらぬ姿でたたずんでいる。

(3) 気候：瀬戸内式気候に属する。起伏に富んでいる地形なため、山岳部、高原部、内陸部、盆地などの気候は定型的な気候区にあてはまらず、市内の地域によって平均気温に差がある。

○調査内容

■温泉を活用した地域の健康づくりへの挑戦■

～「日本一の炭酸泉」湧出地を活かして～

(1)竹田市の温泉資源

【国民保養温泉地　竹田温泉群】平成27年に市内全域で拡大指定にした。

◎竹田・荻温泉郷

・竹田温泉「花水月」(塩化物泉)
・荻の里温泉（炭酸水素塩泉）

◎久住高原温泉郷

・法華院温泉（硫酸塩泉）
・赤川温泉（硫黄泉）
・七里田温泉（二酸化炭素泉）
・白丹温泉（炭酸水素塩泉）

◎長湯温泉郷

・ラムネ温泉館（二酸化炭素泉）
・御前湯（炭酸水素塩泉）
・クアパーク長湯（炭酸水素塩泉）

【温泉を活用とした取組み】

1933 年（昭和 8 年）　九州帝国大（現在の九州大学）松尾武幸博士により、長湯温泉で炭酸泉研究（エビデンス）「飲んで効き長湯して利く長湯のお湯は心臓胃腸に血の薬」と句を残す。長湯温泉は高温・高濃度・豊富な湧出量の炭酸泉は珍しく、日本では 1%に満たない。濃度は花王製品であるバブの 7 個分に相当する。毛細血管が広がり、血流が増し、血圧や血糖値も下がる。またリウマチにも効果があると言われている。

1989 年（平成元年）　全国炭酸泉シンポジウムとして、ドイツに訪問し、炭酸泉の利活用を学ぶ。それを機に国際姉妹都市締結。ドイツ訪問で地域遺伝子に導かれ、炭酸泉を予防医療・健康づくりに活かす方向性が決まる。

2011 年（平成 23 年）　日本初温泉療養保健制度導入。入湯税を財源に温泉療養を実施すると給付金を支給する制度である。10 年後も元気でいよう「笑食歩温竹田式湯治」～元気になれる黄金の法則～歩いて、温泉浴して、食べて、笑う。一見単純に思えるこの一連の行動が、本来人間の持っている自然治癒力を引き出し、細胞や精神的な免疫力を高めることが科学的にも分かってきた。この点に着目した現代版湯治が竹田式湯治である。6 か月間に宿泊施設 3 泊以上の方には 500 円給付、宿泊者で立ち寄り湯に行った場合に 200 円給付、更に歩く体験したら 100 円給付する保健給付制度を市独自で展開。

2015 年（平成 27 年）　産学官連携による温泉エビデンス調査。日本健康開発財団と慶応義塾大学先端生命科学研究所連携による長湯温泉の飲泉エビデンス調査を実施する。
第 8 回ヘルスツーリズム大賞受賞

2016 年（平成 28 年）　温泉総選挙　健康増進部門第 1 位受賞。

2017 年（平成 29 年）　温泉利用型健康増進施設（連携型）認可。厚生労働省より長湯温泉療養文化館「御前湯」と B&G 体育館の連携型では全国でも初めての認可。九州では唯一の認可施設である。

2018 年（平成 30 年）　第 1 期ヘルスツーリズム認証。全国で 17 か所が認証され、九州では唯一。

2019 年（令和元年）　温泉療養複合施設「クアパーク長湯」グランドオープン。
「ながゆ旅」健康増進プログラムツアーが JTB パンフレット商品化し、販売開始。
官民一体の推進母体「竹田温泉ヘルスケア推進協議会」設置

【温泉療養をキーワードに地方創生事業】

◎交付金

H27年　　地方創生先行型先駆型交付金　2,800万円（10/10）

H28～30年　地方創生推進交付金　6,583万円（5/10）

H28年　　地方創生拠点整備交付金　1億8千万円（5/10）内クアパーク施設9,000万円

R1～　　地方創生推進交付金（継続深化事業）　453万6千円

◎予防医療・自然治癒力を高める取組み

【炭酸泉を活かす】

① 人材育成：有資格者の確保

竹田市の有資格者数(2019年9月現在)

・温泉入浴指導者　96名取得

・温泉利用指導者　5名取得

・竹田市総合インストラクター　52名取得

② エビデンスの蓄積：飲泉・入浴による身体への影響

・産学官連携による温泉エビデンス調査

（日本健康開発財産と慶応義塾大学先端生命科学研究所）

・ヘルスツーリズム認証商品の開発

炭酸泉を活用した健康増進プログラム「ながゆ旅」

③ 中核拠点整備：専門的な湯中運動・療養施設

・温泉療養複合施設「クアパーク長湯」

源泉かけ流しの高濃度炭酸泉を活用した、約50mの歩行浴、湯中運動浴槽を完備。

◎竹田市の健康課題への解決：住民の健康づくり（介護予防対策）

① 高齢化率　46.5%（令和2年2月現在）

② 介護新規認定者主要疾患割合：廃用症候群　48.5%

（内訳）関節疾患　55.3%・骨折、転倒等　21.3%

⇓

『骨折・転倒等を防止する下肢の筋力向上がキーワード』

介護予防メニューに加え、温泉資源を活用した筋力アップ教室を開催中

◎温泉利用型健康増進施設（連携型）の推進　別紙資料

長湯温泉療養文化館とクアパーク長湯の利用で「医療費控除申請」が可能。

厚生労働省が定める一定の基準を満たし、温泉を利用した健康づくりを図ることができる施設。認定施設を利用して温泉療養を行い、かつ所得税を納めている、一世帯の一年間の医療費が10万円を超える、御前湯の利用がおおむね1か月に7日超える要件を満たしている方に対して施設利用料金、施設までの往復交通費について所得税の医療費控除を受けることができる。

【所　感】

歩いて、温泉浴して、食べて、笑う。一見単純に思えるこの一連の行動が人間の本来持っている自然治癒力を引き出し、細胞や精神的な免疫力を高めることこそ元気になれる黄金の法則であり、これが竹田式湯治である。予防医療と観光振興を融合した新たな付加価値を温泉に付けた施策である。この発想の源は、竹田市から黒川温泉まで 20 分、湯布院温泉まで 40 分、別府温泉まで 60 分と全国的に知名度の高い温泉郷の近くに位置していることから如何に差別化を図るかというところから生まれてきた。

そこで先進地ドイツで温泉を活かした予防医療の展開に着目し、日本の温泉の概念は「温浴」であるが、ドイツのように「予防医療」に温泉を活かす温泉地へ方向性を定めてブランディングしてきたことが成功につながったのではないかと考える。

更にフランスにおいては入湯税を研究費に充て温泉の付加価値を高めるように利用していることを学び、竹田市においても入湯税を市の財源に入れるのではなく、竹田市の医科学調査費として有効活用してきたことも特筆すべき点である。ちなみに令和元年度の入湯税は 2,000 万円であった。

また入湯税を竹田式温泉パスポートとして宿泊者へ給付還元し、地域経済の循環と共にリピーターにつなげていることも有効な施策である。パスポート申請者は 1,200 名、そのうち 800 名が給付を受け、給付実績は 360 万円であった。東京の 40 歳代女性からの人気が高く、多い方は 14 連泊した女性があったとのことである。医療費控除を受けられた方の実績は 4 件であった。

10 年前の高齢化率 39.5%から現在 7%アップ。扶助費においても 10 年間で 9 億円増と財政を圧迫している課題に対して竹田式湯治を進め、健康寿命を引き延ばし、更に湯中運動によって介護予防対策をし、介護新規認定を少しでも伸ばすことによって社会保障給付費を抑えていくために温泉資源を活用していることも有効利用であると考える。

更に現代では健康経営が叫ばれている。「ながゆ旅」健康増進プログラムツアーとして観光ばかりでなく、そのプログラムを企業向けにしたリフレッシュメンタルプログラム研修もこれから注目を集めることになると感じた。

昭和 32 年に湧出した六日町温泉は無色無臭の特徴がない単純温泉・ナトリウム塩化物泉である。しかしながら湯量は現在、約毎分 1,980ml と県内屈指の豊富な湯量であり、源泉温度は約 58℃と高温であることから、湧出して僅か 7 年後の昭和 39 年に国民保養温泉地に認定された量・質の高い温泉である。

現在、新潟県内で認定されている温泉は六日町温泉の他 3 か所のみである。更に市内には 13 の温泉が湧き出ている。

加えて地域医療の先進地であるゆきぐに大和病院が存在し、かつては健友館において人間ドック、保健指導、田舎体験、温泉、食を組み合わせたやまとぴあを展開し、大きな実績を残している。

このように温泉を予防医療として活かす施策は環境も整っており、当地でも有効である

と考える。しかし温泉利用型健康増進施設認可にあたっては、温浴施設が課題とある。

認可条件の設備として、有酸素運動及び筋力強化等の補強運動が安全に行える設備として、①トレーニングジム②運動フロア③プール(遊泳用プール)、また準備運動及び整理運動を行う設備については、ディスポートと利用することは可能であるが、温泉利用のための設備 ①入浴前に温泉または温水を身体に浴びるための設備(いわゆる「かかり・かぶり湯」) ②全身及び身体の一部の入浴を行うための温泉浴槽(いわゆる「半身・全身浴」) ③心身の安静を主たる目的として仰臥した状態で入浴を行うための温泉設備(いわゆる「寝湯」) ④動水圧、気泡等により身体の表層を刺激し、血行を促進するための温水浴槽(いわゆる「圧注浴」「気泡浴」「渦流浴」など) ⑤蒸気浴または熱気浴を行うための設備(いわゆる「箱むし」「ミストサウナ」「遠赤外線サウナ」など) ⑥更衣室、休憩室その他の付帯設備を完備している施設が現在、市内にないことである。

加えて体育大学卒業し、資格試験に合格した健康運動指導士、加えて保健師・管理栄養士・健康運動指導士免許のある方で温泉利用指導者資格に合格した人材が必要となるため人材群の面では極めてハードルが高い。竹田市のように地域おこし協力隊で資格者を募る方法もあるが、官民が連携して地元で育成していく必要がある。

現在、全国で認可された温泉利用型健康増進施設は22か所。新潟県はグリンピア津南の1か所である。

当市の温泉を活かした予防医療は可能性が拡がるとは思うが、豊後高田市の子育て・教育の取組みと同じように、地域、行政、観光関係者、医療関係者、議員、市民の本気さが問われてくると感じました。

3.【インバウンドの成功事例】

○会場：幕張メッセ

○研修目的：地方創生 EXPO のセミナーを受講し、インバウンドの可能性を調査研究する。

■小さな世界都市　兵庫県豊岡市　外国人観光客が 6 年で 45 倍！■

講演：豊岡市長　中貝　宗治

○豊岡市の概要

(1) 人口・世帯：人口　80,858 名　世帯数　33,322　(令和 2 年 1 月 31 日現在)

(2) 地勢：豊岡市は、兵庫県の北部にある但馬地域の中心都市。面積は 697.7 ㎢と兵庫県で最も面積が大きい市でもある。 日本で最後の野生コウノトリの生息地として知られ、保護・繁殖・共生の事業が行われている。市内には城崎温泉、重伝建の出石、竹野浜などの海水浴場、神鍋高原のキャンプ場・スキー場がある。

(3) 日本海側気候であり、豪雪地帯となっている。豊岡市は内陸に位置することから年間平均降雪量は 312cm であり、新潟市（217cm）、金沢市（281cm）や福井市（286cm）といった北信越の都市を上回る西日本屈指の豪雪都市でもある。夏は猛暑になることが多く、また年間で約 120 回もの盆地霧が発生する。寒暖の差がとても激しく、夏の最高気温と冬の最低気温との差が 45 度近くになる年もある。

○講演内容

【地方創生は、人口減少対策である！】

豊岡市は人口推計から、10 年後人口は、8 万人から 5.8 万人に減少。更に 20～40 歳代は、約 30%減少する。そこで目標人口を 6.2 万人とした。高校卒業時に約 2,000 人が市外に移るが、帰ってくるのは 40%で、60%は戻ってこないのが現状である。これは「暮らす価値のないまちとして若者に選ばれないまち」であることを認識し、そこで突き抜けた価値を創造することが必要であると考えた。

【豊岡市はどのようなまちを目指すのか】

私たちは、目指す都市像を「小さな世界都市－ローカル＆グローバルシティ」と定めた。「小さな」を「ローカル」と訳している。 豊岡というローカルに深く根ざしながら、世界で輝き「小さくてもいいのだ」という堂々とした態度のまちを創ろうということ。

【世界に通用する飛び立つエンジンは】

1) エコバレーの創造

2005 年秋、日本の空から一度は姿を消したコウノトリが再び豊岡の空に羽ばたいた。

私たちはコウノトリをシンボルとして、次のような戦略的なまちづくりを展開。

① 人が四季の移り変わりのなかで、安心と懐かしさ、地域への深い愛着を感じることのできるまち

② 自然や歴史、伝統や文化を大切にし、おだやかさとやすらぎに満ちた持続可能なまち

③ 人々が大いなる夢と希望を抱きながら活躍し、元気と賑わいがあふれるまち

このようなまちを私たちが創りあげたとき『コウノトリが悠然と舞う　ふるさと』が実現すると考える。

"ふるさと豊岡"が地方の小さな都市（まち）であっても、世界の人々から尊敬され、尊重される『小さな世界都市』になるものと信じている。

2）深さを持った「演劇のまち」づくり：豊岡演劇祭の開催、（仮称）国際観光芸術専門職大学の設置、アーティストの移住促進等。5年でアジア No.1 の演劇祭りを目指す！

① 演劇場(350 席)建設

② アートセンターを造り 3 か月無料展示サービス

③ アーティスト　イン　レジデンス　平間オリザ氏移住

3)ローカル＆グローバルコミュニケーション教育：ふるさと教育

①保育園・幼稚園・小・中学校で英語学習の徹底

② 全ての小・中学校で演劇授業

【インバウンド促進】

■観光地：城崎温泉　半径 400m内に外湯 7 か所、旅館 74 軒

「共存共栄」を打ち出し、3 階建てまでと建築規制

城崎地域人口　3,500 人のまちに、宿泊客　63 万人（2018 年）

■ターゲット：欧・米・豪の 3 カ国に絞る。

■プロの人材を育成

2009 年　副市長公募

公募の趣旨：豊岡市の目指す都市づくりに、民間での職務経験を生かし、深い見識、豊かな発想力と熱意をもって取り組んでいただける人材（副市長候補者）を全国から広く募集。1，371 人の応募の中から真野毅氏（５３歳）に。

○就任時の記事抜粋

市では、副市長を 2 人制にすることとし、既に中川茂副市長が在任しているが、 あと 1 人の副市長に真野毅氏（東京都調布市から）が就任した。元京セラ㈱部長の真野副市長は、「まちの活性化を図る仕事をし、社会にも貢献したいと思っていました。心が豊かな社会を目指すまちづくりに共感しています。私が民間企業で培ってきたビジネス感覚を生かし、皆さんがここにいることが楽しい、ここに住みたいと思う、そういうまちにしていきたいです」と抱負語った。

今回の副市長の選考に当たっては、「民間での職務経験を生かし、深い見識、豊かな発想力と熱意をもって、市の目指すまちづくりに取り組んでいただける方」などの応募要件を提示し、候補者を全国から公募した。 広く周知するため、報道機関への情報提供や市ホームページなどでの中貝市長の動画 メッセージによりお知らせするほか、説明会を東京と神戸で開催した。

説明会には、予想をはるかに上回る約 800 人の来場者があり、中貝市長が「求める副市長像」や「市のまちづくり」について話をした。

この結果、米国や全都道府県から 1,371 人もの応募 があった。 論文や民間での実績などの書類による第１次選考、面接による第 2 次選考を経て、候補者を決定し、市議会の同意を得た。

早速、真野副市長は、香港コンベンション・ エキシビションセンターで開催された「香港フード・エキスポ 2009 」（主催・香港貿易発展局）にて本市のブースを設置し、ＪＡたじまを出展させた。

これは、アジアを主に北米、ヨーロッパなどの各国が集まる有名な美食博覧会で、今回で 20 回目を迎えた。博覧会のトレードホールには世界各国のバイヤー（買い手）が集まり、食材・食品に関する商談が行われた。本市は、「コウノトリ育むお米」や清酒「幸の鳥」などの農産物や加工品のＰＲを行った。バイヤーの中には、コウノトリ育む農法について関心を抱く方やおいしいお米に納得する方もあり、農産物の海外販路拡大につなげることができた。

かんなべ湯の森「ゆとろぎ」（日高 町栗栖野）の入館者数 200 万人を突破させた。
更に次々とプロの人材群を育成していった。

2012 年　楽天トラベルから人材派遣

2013 年　大交流課（TTI）を設置（プロフェッショナル集団９人）

2014 年　官民連携した創造チームを結成

2016 年　DMO を設立し、地域の稼ぐ力を引き出す

■戦略

○専門集団　TTI　9 名を結成　予算 8,000 万円

○WEB 戦略：FACEBOOK 広告＋SNS 配信

○メディア戦略：海外メディア 17 か国 93 社に月 1 回配信

○海外 REP　5 か国に絞って

○2015 年からアジア圏に打って出る

○ラクビーワールドカップ時、国を絞って WEB 戦略・メディア戦略

○2011 年　7～8 月の 2 か月間　月曜日～金曜日　毎日夜花火を上げる（10 分間）

○2012 年　無電柱化

○2016 年　浴衣レンタル

○2017 年　ライトアップ

○2018 年　アート展

■結果：これからも「圧倒的に突き抜けた豊岡市で暮らす価値創造」に取り組む！

○Lonely　Planet　2007 年　まちづくり No.1

○まちづくりミシュラン星２つ

○インバウンド　6.4 万人

○飲食店舗激増

○地下価格アップ

■所感

地方創生は人口減少対策であると明確に定め、若者に選ばれるまちを目指して圧倒的に突き抜けた価値を創造していく取り組みは見事であった。人口規模は小さくても世界に通用するまちを創造する。ネット社会は世界と直接結びつくチャンスと捉え積極的にWEB戦略メディア戦略を打ち出していったことが功を奏した。

インバウンドを展開していく前に世界に通用する「Local&Global City」を目指すことが先であるとまちの魅力を磨いていくことが重要であると感じた。若者に選ばれるまちは、外国人にも選ばれるまちである。

インバウンドにおいてもターゲットの国を3か所に絞り、集中的にPRを打ち、ラクビーのワールドカップ開催も時流に乗って展開したことは流石である。今回、調査研究した豊後高田市、竹田市、そして豊岡市で共通なことは、明確なビジョンを掲げ、世界レベル、全国レベルを目指して市長、行政、議員、地域、民間、市民がワンチームとなって本気になって圧倒的に突き抜けた取り組むを積み重ねていくことに尽きると感じた。

以上、南魚みらいクラブの行政視察研修報告とさせて頂きます。

令和2年2月12日提出